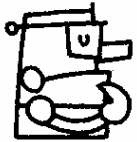


小 / 理科 / 6年 / 生物と環境 /
人と動物の体 / 理解シート

血液型にある、+ (プラス)、- (マイナス)はなんなの



血液を分類する方法の一つである、^{アールエイチ}Rh式血液型に、「+」プラスと「-」マイナスがあるのさ。

^{エービーオー}

A B O式血液型だけでは、輸血のとき、おかしなことが起きる

血液を血液型で分ける方法の一つに、Rh式血液型というのがあります。血液を血液型で分ける方法でよく知られているのは、^{エー}A型、^{ビー}B型、^{オー}O型などに分けるA B O式血液型です。

大けがをして大量の血が出たときなど、体内の血液量が少なくなりすぎて、ほかの人の血液をもらって体内に入れる、輸血が必要になることがあります。このとき、血液型を調べて、必ず、同じ血液型の人血液を輸血します。ちがう血液型の血液がまぜられると、血液がかたまったり、血液中の赤血球がとけてしまうなど、大変なことになるからです。

ところが、A B O式血液型で調べた、同じ血液型の血液を輸血されたのに、ちがった血液型の血液を入れられたのと同じような状態が起きた事件があり、A B O式とは無関係に、別の血液型があることが確かめられたのが、Rh式血液型です。

Rh式血液型でRh-の人は、日本人にはとても少ない

Rh式血液型は、Rh+ (プラス)とRh- (マイナス)の2種類があり、たいてい人は、Rh+です。とくに、日本人では、Rh-の人は約5%ぐらいしかいませんが、白人には多く、約15~20%がRh-です。

Rh-の血液型の人は、Rh+の血液を輸血されたことがあると、2回目の輸血のときなどから、血液中の赤血球がとけたりすることがあります(何も起きない人もいます)。そのため、血液型の検査には、A B O式血液型と、Rh式血液型の両方が行われ、検査の結果には、両方の血液型が書かれています。

もっと知りたい人へ：「血液型のちがうものを輸血すると、どうなるの」も見てみよう。